火山信仰

目の前にある 2 つの建物は、西巌殿寺（左）と阿蘇神社の上宮である阿蘇山上神社（後方右）です。建物は小さくて新しい（寺のお堂は 2022 年、神社の社殿は 1958 年建設）ものの、その由緒は遠い昔にさかのぼります。阿蘇山上神社は紀元前 282 年、日本の神話に登場する第七代孝霊天皇の時代に創建されたとされており、西巌殿寺は 726 年に創建されました。どちらも信仰の中心となっているのは阿蘇山の火口です。もともと日本の民間信仰の一部であった火山信仰は、神道と仏教の両方に取り入れられました。何世紀もの間、この地域には山伏たち（山伏）が住んで祈りを捧げ、大勢の参詣者が訪れました。

阿蘇山上神社の神職たちと西巌殿寺の僧侶たちの主な目的は同じで、阿蘇山の神である健磐龍命（たけいわたつのみこと）に祈りを捧げ、その機嫌を良好に保ち、健磐龍命と仲間の神々が噴火を起こすのを防ぐことでした。これは単に周辺の農作物や家畜、住居への物理的な被害を防ぐためだけでなく、阿蘇山の噴火が予兆するとされていた国全体の災厄を回避するためでもありました。

現在も、阿蘇山麓にある西巌殿寺本院の住職は毎日ここに来てお経を唱え、阿蘇山の静穏を祈っています。一方、阿蘇神社の下宮の神職たちは、毎年 6 月に、火山の神々におもねって祈りを捧げ、御幣（白い紙の垂れ飾りがついた棒）を供物として火口に投げ入れる「火口鎮めの儀」を行います。